

国立国語研究所学術情報リポジトリ

表紙,奥付,その他

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://repository.ninjal.ac.jp/records/1917

日本語教育論集

18号 2002

[研究論文]

韓・中日本語学習者の非現場指示の使い分けに関する研究

安 龍洙

—複数使用可能な指示詞のソ系とア系を中心に—

主題提示「って」の用法と機能

竹林 一志

[報告]

研究方法にであうまで—教師研修での気づきについて—

本間 淳子

日本語母語話者と学習者による前置き表現の印象の相違

山下みゆき

平成13年度日本語教育上級研修報告

平成13年度日本語教育短期研修報告

日本語教育論集

18

2002

『日本語教育論集』投稿規程・執筆要領

1. 目的

本誌は、日本語教育および日本語教師教育の内容・方法に関わる研究、特に、教育実践にもとづいた研究、新たな視点に立つ研究、将来の展開が期待される研究の成果を積極的に公表することにより、日本語教育の発展に寄与しようとするものである。

2. 投稿資格

上記の目的に合致する内容の原稿であれば、投稿資格は問わない。

3. 原稿の種類

投稿原稿は未発表のものに限る。ただし、学会における口頭発表等を論文の形式にまとめたものも未発表とみなす。投稿原稿の種類は以下のとおり。

研 究 論 文：オリジナルな知見や提言を含む理論的、実証的な研究論文

報 告：教育実践の報告・分析、調査報告、等。

研究ノート：上記の研究論文および報告に至る前の、萌芽的・探索的な段階の研究・報告、等

尚、特定のテーマを設け、内外の研究者に執筆を依頼することがある。

4. 原稿の書式その他

- 1) 原稿は日本語または英語で執筆する。
- 2) 原稿は和文論文の場合、A4 判横書き、40 字×35 行で作成し、研究論文および報告は 14 ページ以内、研究ノートは 8 ページ以内とする。英文論文の場合、A4 判 1 ページあたり 30 行とし研究論文および報告は 20 ページ以内、研究ノートは 12 ページ以内。いずれも、タイトル、図表、資料等を含むこととする。執筆者名、所属機関名は原稿本文には記さない。
- 3) タイトル（和文および英文）、要旨（和文論文の場合は 300 字以内、英文論文の場合は 200 語以内）、キーワード（5 つ以内）、本文の順で記述する。
- 4) 注と文献は本文の後にまとめて示す。
- 5) 3) に示した要旨とは別に、英文要旨（和文論文の場合）または和文要旨（英文論文の場合）を添付する。分量は 3) と同じ。

6) 原稿はワープロを使用してできるだけ刷り上り時のイメージに近い形で作成することが望ましい。

7) 投稿時は、審査用複写 3 部を提出し、審査終了後編集委員会の通知に従い印刷用原稿およびフロッピーを提出する。原稿は原則として返却しない。

8) 別紙に、論文タイトル、上記 3. の内容区分、執筆者、所属機関名、連絡先（郵便番号、住所、電話番号、ファクス番号、E メールアドレス）を記し、原稿とともに提出する。

5. 投稿締め切り

19 号においては 9 月 17 日（必着）を締め切りとする。

6. 採否の決定

本誌編集委員会が査読・審査し、採否を決定したうえ、締め切り日から 3 か月以内に結果を知らせる。

7. 採録決定後の修正

採録決定後、体裁や書式について編集委員会から著者に修正を求める（あるいは編集委員会の判断で書式の細部を変更する）ことがある。

8. 採録となった執筆者には、掲載号 2 部を進呈する。

9. 著作権

- 1) 図版の転載など著作権にかかわることがらは、投稿の際に執筆者の責任において必要な処理を行うこと。
- 2) 掲載された論文等の著作権（著作権法第 27 条、28 条を含む）は国立国語研究所に帰属する。

10. 発行予定

2003 年 3 月末

* 投稿原稿は、下記編集委員会まで郵送のこと。

〒115-8620 東京都北区西が丘 3-9-14 国立国語研究所『日本語教育論集』編集委員会

* 問い合わせは、文書・Fax または E-mail で編集委員会まで。

〒115-8620 東京都北区西が丘 3-9-14 国立国語研究所『日本語教育論集』編集委員会

Fax : 03-3906-3530

E-mail : ronshu@kokken.go.jp

URL : <http://www.kokken.go.jp/jsl/>

◇・◇・◇・◇編集後記◇・◇・◇・◇

国立国語研究所は、2001年4月に独立行政法人へ移行し、それとともに、日本語教育センターは日本語教育部門という新組織に生まれ変わりました。新組織となって初となる記念すべき本号には研究論文9編、報告4編、研究ノート2編、計15編の投稿があり、研究所内外の専門家による厳正な査読の上、4編が採録されました。多くの方々にご投稿いただき、ありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。

『日本語教育論集』は教室研究、学習者研究、教師教育研究など日本語教育の実践に深く関わりのあるものを中心に上げる雑誌をめざしております。これらの領域については、これまで実践的・経験的に成果が積み重ねられながらも、研究的視点からの探究、その成果の蓄積・紹介といったことが十分には行われていませんでした。こうした従来の状況に新たな展望を開くことを企図して、本論集では「教育」に焦点が置かれた論文を積極的に採録していくことを一つの方針として掲げます。

本号でも、本間論文は従来の論文とは異なるタイプのものですが、教師の成長に関して自分自身を深く内省した記述を、新しい試みであると捉え、取り上げることとしました。研究の姿勢、方法、形式、つまり教育の実践での問題意識を掘り下げ、共有するためにどのような内容や形式がありうるのかということについて、本論集が議論の契機となることを期待します。そして、「教育」や「学習」についての研究が進むと同時に、研究方法および記述方法が発展することに貢献したいと考えています。

本誌の目指す趣旨にご賛同いただき、文字通り「日本語教育」研究の活性化に向けて、皆様の積極的な投稿を期待しております。本誌に関するみなさまのご意見をお待ちしております。

編集委員会

『日本語教育論集』ホームページ：<http://www.kokken.go.jp/jsl>

ご意見・ご質問はこちらへ：ronshu@kokken.go.jp

『日本語教育論集』18号 執筆者

安 龍洙（東北大学）

竹林 一志（大東文化大学エクステンションセンター）

本間 淳子（社団法人国際日本語普及協会 所属教師）

山下 みゆき（メリーランド大学）

日本語教育論集編集委員会

委員

文野 峯子（人間環境大学）

Gehrtz 三隅 友子（徳島大学）

池上 摩希子（中国帰国者定着促進センター）

村岡 英裕（千葉大学）

石井 恵理子（国立国語研究所）

金田 智子（国立国語研究所）

小河原 義郎（国立国語研究所）

杉戸 清樹（国立国語研究所）

査読協力者

阿久津 智（拓殖大学）

編集協力者

カネギ ルース（国立国語研究所）

事務局

竹田 麻衣（国立国語研究所）

日本語教育論集 18

発行 平成14年3月 平13-19

編集 国立国語研究所日本語教育部門

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14

TEL:03-3900-3111（代表）

FAX:03-3900-6559

URL:<http://www.kokken.go.jp/jsl/>

2002

日 本 語 教 育 論 集

ISSN 1346-9762